

(様式第 10)

形大医管第 1091 号
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人山形大学
医学部附属病院長
根本 建

山形大学医学部附属病院病院長の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒990-8560 山形県山形市小白川町 1 丁目 4 - 1 2
氏 名	国立大学法人山形大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人山形大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒990-9585 山形県山形市飯田西 2 丁目 2 番 2 号	電話 (023) 633 - 1122
-------------------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

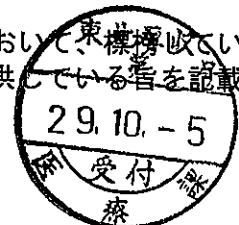
4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) . 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科	2 消化器内科
5 神経内科	6 血液内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	3 循環器内科
	4 腎臓内科
	7 内分泌内科
	8 代謝内科
	11 リウマチ科
診療実績	
標榜としては「内科」に包括されているが、上記診療科名に含まれる領域について網羅的に診療を行っている。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、東標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す



ること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無		
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	(6)心臓血管外科	7内分泌外科	8小児外科
診療実績 標榜としては「外科」に包括されているが、上記診療科名に含まれる領域について網羅的に診療を行っている。			

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科	(2)小児科	(3)整形外科	(4)脳神経外科	(5)皮膚科	(6)泌尿器科	7産婦人科
(8)産科	(9)婦人科	(10)眼科	(11)耳鼻咽喉科	(12)放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	(15)麻酔科	(16)救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無		
歯科と組み合わせた診療科名			
1小児歯科	2矯正歯科	(3)口腔外科	
歯科の診療体制 一般的な歯科診療は診療所等の連携先で行い、特定機能病院である大学病院としては、主に複雑な症例について、医師10名程度で診療を行っている。			

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科	2 病理診断科	3 リハビリテーション科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	601床	637床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	339人	8.8人 (26人)	347.8人	看護補助者	80人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	0.7人 (1人)	10.7人	理学療法士	11人	臨床検査技師	40人
薬 剤 師	37人	0人	37人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	11人	0人	11人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	573人	19.0人 (24人)	592.0人 (597人)	臨床工学士	17人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	1人	1人	2人	歯科技工士	1人	事務職員	75人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	38人	その他の職員	105人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	22人	眼科専門医	14人
外科専門医	28人	耳鼻咽喉科専門医	10人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	17人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	10人	整形外科専門医	19人
泌尿器科専門医	15人	麻酔科専門医	11人
産婦人科専門医	15人	救急科専門医	3人
		合 計	195人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (根本 建二) 任命年月日 平成28年4月1日

医療事故等防止対策委員会委員 平成28年4月1日 ~ 現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	557.3人	6.4人	565.3人
1日当たり平均外来患者数	1,236.5人	51.6人	1288.1人
1日当たり平均調剤数			890.5剤
必要医師数			132人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			20人
必要(准)看護師数			326人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集申治療室	129.5 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 109.69m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	8床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49.65m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	364.08m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 臨床科学自動分析装置、血糖・Alc測定システム、免疫検査装置、蛋白分画測定装置			
細菌検査室	70.00m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌同定/感受性検査装置、LAMP法測定装置、結核用測定装置			
病理検査室	156.16m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
病理解剖室	80.61m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
研究室	10,583m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	275m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	224人
図書室	1,195m ²	鉄筋コンクリート	室数	7室	蔵書数	92,805冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	75.0 %	逆紹介率	72.9 %
A: 紹介患者の数			10,825 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			11,634 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,146 人
D: 初診の患者の数			15,957 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗谷 義樹	地方独立行政 法人山形県・酒 田市病院機構	○	医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	有・ 無	1
阿部 忠之	山形県健康福 祉部		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・ 無	2
久保田 功	山形大学		病院関係業務を 担当する理事	有 ・無	3
西岡 正樹	山形大学学術 研究院		医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	有 ・無	1
佐多 和子	山形家庭裁判 所家事調停委 員		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・ 無	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 本学のホームページに記載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中脳神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	1人
オクトレオチド皮下注射療法 先天性高インスリン血症(生後二週以上十二月未満の患者に係るものであって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。)	0人
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	0人
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺癌(CT撮影により非浸潤がんとして診断されたものを除く。)	2人
mFOLFOX6及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 胃がん(腺がん及び腹膜播種であると確認されたものであって、抗悪性腫瘍剤の経口投与では治療が困難なものに限る。)	1人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	密封小線源 (RALS)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 放射性物質 (Ir-192) を専用アプリーターを用いて腫瘍近傍に留置し、数分間停留させることで体内の腫瘍に集中的かつ効率良く照射する方法			
医療技術名	強度変調放射線治療 (IMRT)	取扱患者数	62人
当該医療技術の概要 照射野の形状を変化させながら複数のビームを用いて、腫瘍の形状に合わせて放射線治療を行う方法			
医療技術名	定位放射線治療 (SRT)	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 小さく限局した腫瘍に対し、三次元的に細いビームを複数方向から照射する方法			
医療技術名	経外耳道的内視鏡下耳科手術	取扱患者数	143人
当該医療技術の概要 全ての操作を外耳道から内視鏡下に行う低侵襲手術			
医療技術名	ナビゲーションシステム支援による内視鏡下副鼻腔手術	取扱患者数	95人
当該医療技術の概要 術中ナビゲーションを用いて副鼻腔とこれに隣接する眼窩・頭蓋底との関係を確認しながら安全に行う内視鏡手術			
医療技術名	内視鏡下喉頭咽頭手術 (ELPS)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 頸部外切開を行わず、彎曲型喉頭鏡で喉頭展開し、経口的に鉗子や電気メスを挿入して内視鏡下に粘膜下層を剥離し腫瘍を切除する低侵襲手術			
医療技術名	難治性ネフローゼにおけるRituximabによる治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 従来の治療に不応性の難治性ネフローゼにおいて、抗体医薬を用いた新規治療を行い			
医療技術名	聴力温存を企図とした聴神経腫瘍摘出術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 耳鼻科・脳神経外科が協力し、聴神経腫瘍患者の聴力温存を目的として手術を行って			
医療技術名	ハイブリット手術室を使用した脳動静脈奇形手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 ハイブリット手術室を用いて、術中血管撮影を行い、脳動静脈奇形を治療するもの			
医療技術名	ハイブリット手術室を使用した脳動脈瘤手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ハイブリット手術室を用いて、術中血管撮影を行い、脳動脈瘤治療を行うもの			
医療技術名	術中MRI室を使用した脳腫瘍摘出術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 術中MRI室を用いて、各種神経モニタリングを行いながら、脳腫瘍の手術を行うもの			

医療技術名	角膜内皮移植 (DSAEK)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ホスト角膜のデスメ膜と内皮を除去した後、マイクロケラトームで作成した角膜内皮ドナーを角膜輪部切開から前房内に挿入し、 空気を用いて接着させる角膜内皮移植術			
医療技術名	ロボット支援腎部分切除術	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 小径腎腫瘍に対して手術支援ロボットを用いて腹腔鏡下に腎部分切除術を施行するもの			
医療技術名	血液型不適合腎移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 血液型不適合ドナーからの腎移植			
医療技術名	抗ドナー抗体陽性腎移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 抗ドナー抗体を有するレシピエントに対する、免疫学的に拒絶のリスクの高い腎移植			
医療技術名	献腎移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 心停止下、または脳死下腎提供による腎移植			
医療技術名	免疫チェックポイント阻害薬投与時の内分泌機能障害への検査と治療	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要 当院で悪性腫瘍に対する免疫チェックポイント阻害薬投与時に生じた内分泌機能障害に対して診断と治療を行っている			
医療技術名	SAP療法(パーソナルCGM機能搭載インスリンポンプ療法)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 糖尿病患者に対して、CGM(持続血糖モニタリング)機能を搭載したインスリンポンプ療法を行い、より厳密に血糖コントロールを行うことができる。			
医療技術名	CGM(持続血糖モニタリング)による血糖日内変動の評価	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 糖尿病患者において採血や自己血糖測定では評価が難しかった血糖値の日内変動を持続的に評価している。			
医療技術名	インスリン持続皮下注入法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 体外のインスリン注入器(インスリンポンプ)より超速効型あるいは速効型インスリン製剤を24時間持続的に投与する方法			
医療技術名	リアルタイム持続血糖測定付きインスリン持続皮下注入法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 リアルタイムに皮下のブドウ糖濃度の測定結果を見ながら、体外のインスリン注入器(インスリンポンプ)を用いて、インスリンの皮下投与量を調整する方法			
医療技術名	血縁・非血縁同種骨髄移植	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 県内唯一の骨髄バンク移植認定施設であり、院内のみならず他院からも依頼を受け移植を行っている。			
医療技術名	血縁同種末梢血幹細胞移植	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 血縁ドナーからの末梢血幹細胞採取後に行う移植			

医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 臍帯血バンクから提供される臍帯血を用いた同種移植。通常の移植よりも厳格な管理を必要とする。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 骨髄腫や再発難治治療感受性のある悪性リンパ腫に対する、超強力な化学療法を行うための方策			
医療技術名	非血縁者移植骨髄採取術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 県内唯一の骨髄バンク採取認定施設であり、骨髄バンクより依頼があった場合に麻酔科の協力のもと採取を行う。			
医療技術名	血縁および自家末梢血幹細胞採取	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 G-CSKまたは化学療法後のG-CSF投与下において末梢血幹細胞を採取する方法			
医療技術名	脳腱黄色腫症の診断と治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳腱黄色腫症の遺伝子診断とケノデオキシコール酸による治療を行っている。			
医療技術名	Fahr病(ファール病)の遺伝子診断	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 脳内石灰化病変をきたす代表疾患としてファール病の遺伝子診断を行っている。			
医療技術名	急性ポルフィリン症の遺伝子診断	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 全国から急性ポルフィリン症患者の遺伝子診断を当該施設で行っている。			
医療技術名	下垂体腫瘍患者の術前後機能評価	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 内科と脳神経外科が協力し、県内の下垂体腫瘍患者の内分泌学的な診断を行っている。			
医療技術名	下垂体機能不全患者へのホルモン補充療法	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要 当院脳神経外科で手術治療を受けた下垂体腫瘍患者へのホルモン補充療法を行っている。 県内で発症した下垂体腫瘍患者のほとんどは、当院で治療している。			
医療技術名	成人成長ホルモン分泌不全患者への成長ホルモン補充療法	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 県内で発症した成人成長ホルモン分泌不全症への、成長ホルモン補充療法を行っている。 全症例について難病申請を行っている。			
医療技術名	難治性ホルモン生産下垂体脾腫の薬物療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 県内で発症した下垂体腫瘍の中で、手術治療のみで奏功しない難治性のものに、薬物治療を追加している。 全症例について難病申請を行っている。			
医療技術名	異所性クッシング症候群の診断と治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 県内で発症した異所性クッシング症候群に下垂体静脈サンプリング、海綿静脈洞サンプリングやオクトレオスキャンなどの検査を行い、メチラポンによる薬物療法を行っている。			

医療技術名	原発性アルドステロン症の局在診断と治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 県内で発症した副腎腫瘍の内、原発性アルドステロン症が疑われる症例に対し選択的副腎静脈サンプリングを行って局在診断を行い、手術治療・薬物治療を行っている。			
医療技術名	不妊症・不育症の原因精査と治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 内科と産婦人科が協力し、内分泌的な診断と治療を県内の不妊症・不育症患者に提供			
医療技術名	神経内分泌腺腫瘍の診断と治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 内分泌学的診断とオクトレオスキャンによる局在診断、ソマトスタチン受容体作動薬による治療を行っている。			
医療技術名	同種骨移植	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 2000年2月より施設内ボンバンクを設立し、自家骨や人工骨で対応不可能な広範骨欠損例に対して、加温滅菌処理同種骨を用いて関節機能再建を行っている。			
医療技術名	アクリジンオレンジを用いた骨軟部腫瘍手術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 悪性骨軟部腫瘍に対する縮小手術を施行した後、アクリジンオレンジを用いて残存腫瘍を殲滅する。			
医療技術名	自家培養軟骨移植術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 膝関節軟骨欠損に対し、患者自身から軟骨を採取培養後に移植を行う。			
医療技術名	周術期hANP投与による非小細胞癌の術後再発抑制	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 非小細胞肺癌の切除術後カルペリチドの投薬を行い、術後再発を抑制する試み(多施設共同試験)を行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
17	56	球脊髄性筋萎縮症		ベーチェット病	62
10	57	筋萎縮性側索硬化症		特発性拡張型心筋症	34
10	58	脊髄性筋萎縮症		肥大型心筋症	4
0	59	原発性側索硬化症		拘束型心筋症	0
7	60	進行性核上性麻痺		再生不良性貧血	19
41	61	パーキンソン病		自己免疫性溶血性貧血	0
5	62	大脳皮質基底核変性症		発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
2	63	ハンチントン病		特発性血小板減少性紫斑病	15
1	64	神経有棘赤血球症		血栓性血小板減少性紫斑病	0
2	65	シャルコー・マリー・トゥース病		原発性免疫不全症候群	4
38	66	重症筋無力症		IgA腎症	7
0	67	先天性筋無力症候群		多発性嚢胞腎	6
38	68	多発性硬化症/視神経脊髄炎		黄色靭帯骨化症	4
4	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー		後縦靭帯骨化症	20
6	70	封入体筋炎		広範脊柱管狭窄症	2
2	71	クロー・深瀬症候群		特発性大腿骨頭壊死症	45
14	72	多系統萎縮症		下垂体性ADH分泌異常症	3
23	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)		下垂体性TSH分泌亢進症	0
4	74	ライソゾーム病		下垂体性PRL分泌亢進症	33
8	75	副腎白質ジストロフィー		クッシング病	7
2	76	ミトコンドリア病		下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
39	77	モヤモヤ病		下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
1	78	プリオン病		下垂体前葉機能低下症	65
4	79	亜急性硬化性全脳炎		家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
1	80	進行性多巣性白質脳症		甲状腺ホルモン不応症	1
0	81	HTLV-1関連脊髄症		先天性副腎皮質酵素欠損症	1
2	82	特発性基底核石灰化症		先天性副腎低形成症	1
1	83	全身性アミロイドーシス		アジソン病	3
1	84	ウルリッヒ病		サルコイドーシス	43
2	85	遠位型ミオパチー		特発性間質性肺炎	10
0	86	ベスレムミオパチー		肺動脈性肺高血圧症	10
0	87	自己食空胞性ミオパチー		肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
4	88	シュワルツ・ヤンベル症候群		慢性血栓性肺高血圧症	9
20	89	神経線維腫症		リンパ管筋腫症	3
18	90	天疱瘡		網膜色素変性症	18
2	91	表皮水疱症		バッド・キアリ症候群	1
4	92	膿疱性乾癬(汎発型)		特発性門脈圧亢進症	2
1	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群		原発性胆汁性肝硬変	42
3	94	中毒性表皮壊死症		原発性硬化性胆管炎	1
18	95	高安動脈炎		自己免疫性肝炎	3
0	96	巨細胞性動脈炎		クローン病	60
5	97	結節性多発動脈炎		潰瘍性大腸炎	142
23	98	顕微鏡的多発血管炎		好酸球性消化管疾患	2
7	99	多発血管炎性肉芽腫症		慢性特発性偽性腸閉塞症	0
8	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
6	101	悪性関節リウマチ		腸管神経節細胞減少症	0
9	102	パージャー病		ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
0	103	原発性抗リン脂質抗体症候群		CFC症候群	0
118	104	全身性エリテマトーデス		コステロ症候群	0
36	105	皮膚筋炎/多発性筋炎		チャージ症候群	0
58	106	全身性強皮症		クリオピリン関連周期熱症候群	0
28	107	混合性結合組織病		全身型若年性特発性関節炎	0
8	108	シェーグレン症候群		TNF受容体関連周期性症候群	0
7	109	成人スチル病		非典型型溶血性尿毒症症候群	0
1	110	再発性多発軟骨炎		ブラウ症候群	0

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	0	161 家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113 筋ジストロフィー	2	163 特発性後天性全身性無汗症	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164 眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165 肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	1	167 マルフアン症候群	1
118 脊髄髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	0	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	2
122 脳表ヘモジデリン沈着症	1	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ベリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	1	177 有馬症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスマンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠伸てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 プラダー・ウィリ症候群	0
144 レノックス・ガストー症候群	0	194 ソトス症候群	1
145 ウエスト症候群	0	195 ヌーナン症候群	0
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シン普森症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	3	208 修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0	209 完全大血管転位症	0
160 先天性魚鱗癬	0	210 単心室症	0

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モート症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	6	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	精神疾患診療体制加算
歯科外来診療環境体制加算	精神科急性期医師配置加算
歯科診療特別対応連携加算	地域歯科診療支援病院入院加算
特定機能病院入院基本料	特定集中治療室管理料1
超急性期脳卒中加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
診療録管理体制加算2	新生児特定集中治療室管理料1
医師事務作業補助体制加算1	新生児治療回復室入院医療管理料
急性期看護補助体制加算	小児入院医療管理料2
看護職員夜間配置加算	短期滞在手術等基本料2
看護補助加算	
療養環境加算	
重症者等療養環境特別加算	
無菌治療室管理加算1	
無菌治療室管理加算2	
緩和ケア診療加算	
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
摂食障害入院医療管理加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
病棟薬剤業務実施加算1	
データ提出加算	
退院支援加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
喘息治療管理料	脳腫瘍覚醒下マッピング加算
糖尿病合併症管理料	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
がん性疼痛緩和指導管理料	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
がん患者指導管理料1	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
がん患者指導管理料2	羊膜移植術
がん患者指導管理料3	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
外来緩和ケア管理料	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	網膜再建術
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術、植込型骨導補聴器交換術
糖尿病透析予防指導管理料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
外来放射線照射診療料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
がん治療連携計画策定料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
肝炎インターフェロン治療計画料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
薬剤管理指導料	経カテーテル大動脈弁置換術
医療機器安全管理料1	経皮的中心心筋焼灼術
医療機器安全管理料2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医療機器安全管理料(歯科)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
遺伝学的検査	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	補助人工心臓
検体検査管理加算(IV)	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出
遺伝カウンセリング加算	胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	腹腔鏡下肝切除術
胎児心エコー法	腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
ヘッドアップティルト試験	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

長期継続頭蓋内脳波検査	同種死体腎移植術
脳磁図	生体腎移植術
神経学的検査	膀胱水圧拡張術
補聴器適合検査	人工尿道括約筋植込・置換術
コンタクトレンズ検査料1	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
小児食物アレルギー負荷検査	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
内服・点滴誘発試験	輸血管管理料 I
画像診断管理加算2	貯血式自己血輸血管管理体制加算
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	自己生体組織接着剤作成術
CT撮影及びMRI撮影	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
冠動脈CT撮影加算	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
心臓MRI撮影加算	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
乳房MRI撮影加算	歯根端切除手術の注3
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	麻酔管理料 (I)
外来化学療法加算1	麻酔管理料 (II)
無菌製剤処理料	放射線治療専任加算
心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	外来放射線治療加算
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	高エネルギー放射線治療
運動器リハビリテーション料 (I)	1回線量増加加算
呼吸器リハビリテーション料 (I)	強度変調放射線治療 (IMRT)
がん患者リハビリテーション料	画像誘導放射線治療 (IGRT)
集団コミュニケーション療法料	体外照射呼吸性移動対策加算
歯科口腔リハビリテーション料2	定位放射線治療
認知療法・認知行動療法1	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
認知療法・認知行動療法2	画像誘導密封小線源治療加算
医療保護入院等診療料	保険医療機関間の連携による病理診断
エタノールの局所注入(甲状腺)	テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
エタノールの局所注入(副甲状腺)	テレパソロジーによる術中迅速細胞診
歯科技工加算1及び2	病理診断管理加算2
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	口腔病理診断管理加算2
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	45回/年
剖検の状況	剖検症例数 29 例 / 剖検率 8.5 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肝病理組織抽出検体を用いたピロシーケンシングによる胆汁うっ滞性肝疾患の病態解析	上野 義之	第二内科	7,200,000	③補委 日本学術振興会
ヒト生体から直接得られる多能性幹細胞Muse細胞を用いた内耳再生治療の多面的解析	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	6,600,000	③補委 日本学術振興会
心房細動・自律神経節アブレーションのメカニズム解明と臨床応用	有本 貴範	第一内科	1,000,000	③補委 日本学術振興会
心-肺腎連関に与えるミッドカインの役割の解明	宍戸 哲郎	第一内科	1,100,000	③補委 日本学術振興会
新規遺伝子改変マウスによる間質性肺炎発症および増悪に関するCCL1の機能解析	井上 純人	第一内科	1,100,000	③補委 日本学術振興会
鉄過剰・欠乏状態が実験肺気腫形成に及ぼす影響の検討	柴田 陽光	第一内科	1,400,000	③補委 日本学術振興会
心理学的要因がテロメア長に与える影響	鈴木 昭仁	精神科	2,200,000	③補委 日本学術振興会
幹細胞分化誘導薬を用いたCED法による膠芽腫新規治療法の開発	園田 純彦	脳神経外科	1,600,000	③補委 日本学術振興会
酸化ストレスと小胞体ストレスの制御による高齢不妊症患者のための新たな治療法の確立	五十嵐 秀樹	産科婦人科	1,300,000	③補委 日本学術振興会
生体親和性多孔性膜(ハニカム膜)を用いた卵巣癌の新規治療戦略と癌幹細胞の樹立	太田 剛	産科婦人科	600,000	③補委 日本学術振興会
自己骨髄細胞と肝幹細胞増殖因子による肝再生療法の基礎研究	齋藤 貴史	第二内科	1,300,000	③補委 日本学術振興会
腎疾患におけるmicroRNAの発現調節機序とバイオマーカーとしての有用性の検討	今田 恒夫	第一内科	1,000,000	③補委 日本学術振興会
アデニンA2a受容体ノックアウトによる α -シヌクレイン神経毒性緩和機序の解明	荒若 繁樹	第三内科	1,500,000	③補委 日本学術振興会
メラニン合成機構に関わる新規分子の解明	川口 雅一	皮膚科	1,500,000	③補委 日本学術振興会
マクロファージの自然免疫応答能から探る人工関節インプラント感染症	高木 理彰	整形外科	1,300,000	③補委 日本学術振興会
急性炎症の初期免疫応答におけるNF κ B経路と生体侵襲の評価	川前 金幸	麻酔科	1,100,000	③補委 日本学術振興会
ファーマコゲノミクスとトランスクリプトミクスによる腎癌薬物療法の新治療体系の確立	土谷 順彦	泌尿器科	1,000,000	③補委 日本学術振興会
進行性腎細胞癌患者の予後因子および治療標的となるMDSCs特異的マーカーの探索	加藤 智幸	泌尿器科	1,400,000	③補委 日本学術振興会

小計 18

子宮体部漿液性腺癌の抗癌剤耐性克服にむけたメタボローム解析に基づく新治療戦略	永瀬 智	産科婦人科	1,000,000	補委	日本学術振興会
脂肪細胞のエストロゲン依存性レドックス制御に対するmiRNA-222の機能解析	高橋 一広	産科婦人科	1,300,000	補委	日本学術振興会
樹状細胞を中心とした硝子体内炎症惹起制御機能と糖尿病網膜症進展の分子病態	山下 英俊	眼科	1,500,000	補委	日本学術振興会
レム睡眠行動異常のレビーおよびアミロイドの拡がりを画像で捉える	小林 良太	精神科	600,000	補委	日本学術振興会
肝幹細胞由来の細胞外小胞を用いた新たな急性肝不全治療の研究	芳賀 弘明	第二内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
大動脈弁狭窄症の発症抑制を目指したmicroRNA解析	渡邊 哲	第一内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
骨髄機能不全症候群の白血病化関連遺伝子検索とその病態寄与の解明	三井 哲夫	小児科	900,000	補委	日本学術振興会
本邦における巣状分節性糸球体硬化症の疫学と病態解明	橋本 多恵子	小児科	1,300,000	補委	日本学術振興会
化学物質誘発性尋常性白斑の発症に関与する感受性遺伝子の同定と機能解析	鈴木 民夫	皮膚科	1,000,000	補委	日本学術振興会
オピオイド・オキシトシン受容体の遺伝型と養育態度が衝動性・情動欠如に与える影響	大谷 浩一	精神科	500,000	補委	日本学術振興会
ERK5を標的とする新規腎細胞癌治療戦略の開発	長岡 明	泌尿器科	2,100,000	補委	日本学術振興会
マルチオミックス技術を用いた口腔癌・前がん病変唾液バイオマーカーの探索的研究	川越 淳	産科婦人科	1,400,000	補委	日本学術振興会
マルチオミックス技術を用いた口腔癌・前がん病変唾液バイオマーカーの探索的研究	飯野 光喜	歯科口腔・形成外科	1,200,000	補委	日本学術振興会
Direct reprogramming法による疾患特異的肝内胆管上皮細胞の作製	上野 義之	第二内科	900,000	補委	日本学術振興会
蝸牛階からコルチ器へ - 高効率な幹細胞誘導への挑戦 -	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	1,400,000	補委	日本学術振興会
低酸素環境が神経障害性疼痛に与える影響についての実験的アプローチ	秋元 亮	麻酔科	1,000,000	補委	日本学術振興会
Muse細胞を用いた内耳の再生	小泉 優	耳鼻咽喉科	500,000	補委	日本学術振興会
難治癌幹細胞のJNKシグナルを標的とした薬剤感受性の回復とその機序	鈴木 修平	腫瘍内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
喫煙誘導実験肺気腫におけるケモカインCCL1の役割の探究	木村 友美	第一内科	1,500,000	補委	日本学術振興会
特発性正常圧水頭症の予備軍の発症危険因子の検討	高橋 賛美	第三内科	500,000	補委	日本学術振興会
新生児高ビリルビン血症の病態解明	佐藤 裕子(早川 裕子)	小児科	1,500,000	補委	日本学術振興会

c-Jun発現に着目した卵巣がん化学療法耐性克服への取り組み	清野 学	産科婦人科	1,500,000	補 委	日本学術振興会
多能性幹細胞Muse細胞を用いた蝸牛有毛細胞再生	新川 智佳子	耳鼻咽喉科	900,000	補 委	日本学術振興会
分化増殖因子徐放型材料および歯髄幹細胞による顎骨再建法の開発	遊佐 和之	歯科口腔・形成外科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
腎癌におけるFGFR4の働きと新規治療戦略の開発	櫻井 俊彦	泌尿器科	1,900,000	補 委	日本学術振興会
てんかん性脳症に対する全エクソン解析を用いた早期診断システムの構築と治療法開発	中村 和幸	小児科	1,700,000	補 委	日本学術振興会
遺伝性色素異常症患者の網羅的原因遺伝子探索およびその機能解析	岡村 賢	皮膚科	1,900,000	補 委	日本学術振興会
ブドウ糖/アミノ酸代謝比画像による脳腫瘍の治療予後評価に関する研究	鹿戸 将史	放射線診断科	800,000	補 委	日本学術振興会
LDLによる腎癌ソラフェニブ耐性の獲得機序の解明と新規マーカー、薬剤の開発	内藤 整	泌尿器科	1,600,000	補 委	日本学術振興会
ヒストンメチル化制御を介した卵巣がん新規治療法の確立を目指して	榊 宏諭	産科婦人科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
D-アミノ酸発現機序と機能的役割の解明および慢性炎症病態との関連	鈴木 祐輔	耳鼻咽喉科	800,000	補 委	日本学術振興会
Muse細胞を用いた内耳前庭の再生	千葉 真人	耳鼻咽喉科	1,800,000	補 委	日本学術振興会
機能性化粧品成分の個体差等に基づく安全性評価法の策定に関する研究	鈴木 民夫	皮膚科	700,000	補 委	厚生労働省
先天性中枢性低換気症候群(CCHS)の診断基準・ガイドライン・重症度分類の確立	佐々木 綾子	新生児集中治療室	120,000	補 委	厚生労働省
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	上野 義之	第二内科	360,000	補 委	厚生労働省
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	鈴木 民夫	皮膚科	450,000	補 委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模施設研究	高木 理彰	整形外科	100,000	補 委	厚生労働省
脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模施設研究	高木 理彰	整形外科	150,000	補 委	厚生労働省
中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するデモノロドを用いた標準治療確立に関する研究	園田 順彦	脳神経外科	625,000	補 委	日本医療研究開発機構
新生児タンデムマススクリーニング対象疾患の診療ガイドライン改訂、診療の質を高めるための研究	沼倉 周彦	小児科	760,000	補 委	日本医療研究開発機構

次世代シーケンス技術によるウイルス因子解析を基軸としたC型肝炎新規治療の病態解明と臨床応用(山形コホート研究における住民基盤検体を用いたウイルス因子の解析)	上野 義之	第二内科	2,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
吸収性スペーサーを用いた体内空間可変粒子線治療の有用性と安全性の検討(術後再発癌に対するスペーサーの応用の評価、PGAスペーサーのPhase I臨床試験の実施、PGAスペーサーのPhase I臨床試験の有効性評価、PGAスペーサーのPhase I臨床試験の安全性評価)	根本 建二	放射線診断科	300,000	補 委	日本医療研究 開発機構
難治性てんかんを呈する希少疾患群の遺伝要因と分子病態の解明(てんかん性脳症・傍シルビウス裂症候群・巨脳症・毛細血管奇形症の遺伝要因と臨床病型の解明)	中村 和幸	小児科	1,400,000	補 委	日本医療研究 開発機構
リコンビナントヒトIGF-1(メカセルミン)の突発性難聴への適応拡大のための医師主導型治験	欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	546,000	補 委	日本医療研究 開発機構
腫瘍性を持たない多能性幹細胞Muse細胞を用いた新たな肝再生治療(内科的疾患を想定したブタ肝切除モデルでの実験)	上野 義之	第二内科	9,900,000	補 委	日本医療研究 開発機構
医工連携を基盤としたトランスレーショナルリサーチ拠点形成ネットワーク(ミニブタを用いた新規生体親和性素材による胆道ステントの有効性評価(前臨床評価))	上野 義之	第二内科	2,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
代謝疾患克服のための臓器間ネットワーク機構の統合的機能解明	上野 義之	第二内科	6,175,000	補 委	日本医療研究 開発機構

計 65

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kumagai Y,Arimoto T,Iwayama T et al.	第一内科	Contact Force-Guided Deep Engagement with a Steerable Sheath in the Distal Great Cardiac Vein: A Case Report.	Pacing Clin Electrophysiol. 2016 May;39(5):507-10	Original Article
2	Narumi T,Watanabe T, Iwayama T et al.	第一内科	Ruptured Right Sinus of Valsalva Aneurysm Caused by Suspected Takayasu's Arteritis.	Intem Med.2016;55(10):1305-8	Original Article
3	Wanezaki M,Watanabe T, Nishiyama S et al.	第一内科	Trends in the incidences of acute myocardial infarction in coastei and inland areas in Japan: The Yamagata AMI Registry.	J Cardiol. 2016 Aug;68(2):117-24	Original Article
4	Sato H, Konta T,Ichikawa K et al.	第一内科	Comparison of the predictive ability of albuminuria and dipstick proteinuria for mortality in the Japanese population: the Yamagata(Takahata) study.	Clin Exp Nephrol. 2016 Aug;20(4):611-617	Original Article
5	Otaki Y,Watanabe T,Takahashi H et al.	第一内科	Renal tubular damage is associated with poor clinical outcome in patients with peripheral artery disease who underwent endovascular therapy.	Int J Cardiol. 2016 Oct 1;220:376-81	Original Article
6	Otaki Y,Watanabe T,Nishiyama S et al.	第一内科	The Impact of Superoxide Dismutase-1 Genetic Variation on Cardiovascular and All- Cause Mortality in a Prospective Cohort Study: The Yamagata(Takahata) Study.	PLoS One. 2016 Oct 18;11(10)	Original Article
7	Yokoyama M,Watanabe T, Otaki Y et al.	第一内科	Association of the Aspartate Aminotransferase to Alanine Aminotransferase Ratio with BNP Level and Cardiovascular Mortality in the General Population: The Yamagata Study 10-Year Follow-Up.	Dis Markers.2016;2016:48579 17	Original Article
8	Kamei K,Konta T,Hirayama A et al.	第一内科	Associations between serum uric acid levels and the incidence of nonfatal stroke: a nationwide community-based cohort study.	Clin Exp Nephrol. 2016 Jul 12	Original Article
9	Watanabe T	第一内科	Is the Brain the Alternative Therapeutic Target for Heart Failure?	Circ J. 2016 Jul 25;80(8):1702-3	Review

10	Otaki Y,Watanabe T,Takahashi H et al.	第一内科	Serum carboxy-terminal telopeptide of type I collagen (I-CTP) is predictive of clinical outcome in peripheral artery disease patients following endovascular therapy.	Heart Vessels. 2017 Feb;32(2):149-156	Original Article
11	Nemoto T,Shibata Y,Inoue S et al.	第一内科	MafB enhances the phagocytic activity of RAW264.7 macrophages by promoting Fcgr3 expression.	Biochem Biophys Res Commun. 2017 Jan 8;482(2):375-381	Original Article
12	Hashimoto N,Arimoto T,Narumi T et al.	第一内科	The Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Predicts All-Cause Mortality in Patients with Implantable Cardioverter Defibrillators.	Pacing Clin Electrophysiol. 2017 Feb;40(2):135-144	Original Article
13	Inoue S,Shibata Y,Kishi H et al.	第一内科	Decreased left ventricular stroke volume is associated with low-grade exercise tolerance in patients with chronic obstructive pulmonary disease	BMJ Open Respir Res. 2017 Jan 25;4(1)	Original Article
14	Sasaki Y,Abe Y,Ueno Y	第二内科	A Rare Cause of Protein-Losing Gastropathy.	Gastroenterology. 2016;150:1094-1095	Case report
15	Akamatsu M,Makino N,Ikeda Y et al.	第二内科	Specific MAPK-Associated MicroRNAs in Serum Differentiate Pancreatic Cancer from Autoimmune Pancreatitis.	PLoS One. 2016 Jul 5;11(7) e0158669	Original Article
16	Saito T,Sugimoto M,Okumoto K et al.	第二内科	Serum metabolome profiles characterized by patients with Hepatocellular carcinoma associated hepatitis B and C.	World J Gastroenterol. 2016;22;6224-6234	Original Article
17	Nishise S,Abe Y,Nomura E et al.	第二内科	Effect of Cellulose Acetate Beads on Interleukin-23 Release.	Ther Apher Dial. 2016;20:354-359	Original Article
18	Kakizaki Y,Makino M,Tozawa T et al.	第二内科	Stromal Fibrosis and Expression Matricellular Proteins Correlate With Histological Grade of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas.	Pancreas. 2016 Sep;45(8):1145-52	Original Article
19	Katsumi T,Ninomiya M,Nishina T et al.	第二内科	MiR-139-5p is associated with inflammatory regulation through c-FOS suppression, and contributes to the progression of primary biliary cholangitis.	Lab Invest. 2016 Nov;96(11):1165-1177	Original Article
20	Makino N,Shirahata N,Honda T et al.	第二内科	Pancreatic hyperechogenicity associated with hypoadiponectinemia and insulin resistance: A Japanese population study.	World J Hepatol. 2016 Nov 28;8(33):1452-1458	Original Article

21	Tanji H, Okada H, Igari R et al.	第三内科	Inflammatory Pseudotumor of the Brain Parenchyma with IgG 4 Hypergammaglobulinemia.	Intern Med. (オンライン) 2016;55(14):1911-1916	Case report
22	Susa S, Sato-Monma F, Ishii K et al.	第三内科	Transient Worsening of Photosensitivity due to Cholelithiasis in a Variegate Porphyria Patient.	Intern Med. (オンライン) 2016;55(20):2965-2969	Case report
23	Khono K, Narimatsu H, Shiono Y et al.	第三内科	High Serum Adiponectin Level Is a Risk Factor for Anemia in Japanese Men: A prospective Observational study of 1,029 Japanese Subjects.	PLoS One. (オンライン) 2016;11(12)	Original Article
24	Sato H, Takahashi Y, Kimihira L et al.	第三内科	A Segmental Copy Number Loss of the SFMBT1 Gene IS a Genetic Risk for Shunt-Responsive, Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus (iNPH): A Case-Control Study.	PLOS One. (オンライン) 2016;11(11)	Original Article
25	Koyama S, Kato T	第三内科	Pathophysiology of cerebrotendinous xanthomatosis.	Rinsho Shinkeigaku. (オンライン) 2016;56(12):821-826	Review
26	Koyama S, Sato H, Wada M et al.	第三内科	Whole-exome sequencing and digital PCR identified a novel compound heterozygous mutation in the NPHP1 gene in a case of Joubert syndrome and related disorders.	BMC Med Genet. (オンライン) 2017;18(1):37	Case report
27	Ishizawa K, Fukuhara N, Nakaseko C et al.	第三内科	Safety, efficacy and pharmacokinetics of humanized anti-CD52 monoclonal antibody alemtuzumab in Japanese patients with relapsed or refractory B-cell chronic lymphocytic leukemia.	Jpn J Clin Oncol. 2017; Jan;47(1):54-60	Original Article
28	Otani K, Suzuki A, Matsumoto Y et al.	精神科	Link of dysfunctional attitudes with the negative self-model.	Ann Gen Psychiatry. 15:11, 2016	Original Article
29	Otani K, Suzuki A, Matsumoto Y et al.	精神科	Effects of perceived affectionless control parenting on working models of the self and other.	Psychiatry Res. 242:315-8, 2016	Original Article
30	Araki Y, Abe Y, Takeda Y et al.	皮膚科	Incontinentia pigmenti with retinal vascular anomaly and deletion of exons 4-10 in NEMO.	J Dermatol. 2016 Sep 26. (オンライン)	Letter
31	Araki Y, Okamura K, Munkhbat B et al.	皮膚科	Whole-exome sequencing confirmation of multiple MC1R variants associated with extensive freckles and red hair: Analysis of a Mongolian Family.	J Dermatol Sci. 2016 Nov;84(2):216-219	Letter

32	Hayashi M, Okamura K, Araki Y et al.	皮膚科	A novel three dimensional imaging method for the measurement of area in vitiligo and chemical leukoderma.	J Dermatol Sci. 2016 Nov;84(2):219-221	Letter
33	Okamura K, Hayashi M, Abe Y et al.	皮膚科	Microsatellite polymorphism located immediately upstream of the phosphatidylinositol glycan, class K gene (PIGK) affects its expression, which correlates with tyrosinase activity in human melanocytes.	J Dermatol Sci. 2017 Feb;85(2):131-134	Original Article
34	Okamura K, Konno T, Onami T et al.	皮膚科	A case of primarily facial pyoderma gangrenosum associated with Takayasu arteritis.	JAAD Case Rep. 2017 Mar 12;3(2):124-126	Case report
35	Kanoto M, Hosoya T	放射線診断科	Diagnosis of Intracranial Artery Dissection.	Neurol Med Chir. 2016 Sep 15;56(9):524-33	Review
36	Kanoto M, Kirii K, Toyoguchi Y et al.	放射線診断科	Radiological imagine features of glioblastoma with oligodendroglioma component: A comparison with conventional glioblastoma.	Acta Radiol Open. 2016 Nov 22;5(11):1-8	Original Article
37	Ono T, Hareyama M, Nakamura T et al.	放射線治療科	The clinical results of proton beam therapy in patients with idiopathic pulmonary fibrosis: a single center experience.	Radiat Oncol. 2016 Apr 18;11:56	Original Article
38	Fukumoto T, Watanabe T, Hirai I et al.	第一外科	Pancreatic volume is one of the independent prognostic factors for resectable pancreatic ductal adenocarcinomas.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2016 Aug;23(8):472-9	Original Article
39	Oizumi H, Kato H, Endoh M et al.	第二外科	Port-access thoracoscopic anatomical right anterior segmentectomy.	Segmentectomy for Thoracic Diseases: Make it Easy. 2016:139-142	Letter
40	Endoh M, Oizumi H, Kanauchi N et al.	第二外科	Removal of foreign bodies from the respiratory tract of young children: Treatment outcomes using newly developed foreign-body grasping forceps.	J apediatr Surg. 2016;51(8):1357-1379	Original Article
41	Honma R, Fujii Y, Ogasawara S et al.	整形外科	Critical Epitope of Anti-Rabbit Podoplanin Monoclonal Antibodies for Immunohistochemical Analysis.	Monoclon Antib Immunodiagn Immunother. 2016 Apr;35(2):65-72	Original Article
42	Honma R, Ogasawara S, Kaneko MK et al.	整形外科	PMab-44 Detects Bovine Podoplanin in Immunohistochemistry.	Monoclon Antib Immunodiagn Immunother. 2016 Jun 7	Original Article

43	Honma R, Kaneko MK, Ogasawara S et al.	整形外科	Specific Detection of Dog Podoplanin Expressed in Renal Glomerulus by a Novel Monoclonal Antibody PMab-38 in Immunohistochemistry.	Monoclon Antib Immunodiagn Immunother. 2016 Aug;35(4):212-6	Original Article
44	Iwazaki K, Tanaka T, Hozumi Y et al.	整形外科	DGKzeta Downregulation Enhances Osteoclast Differentiation and Bone Resorption Activity Under Inflammatory Conditions.	J Cell Physiol. 2017 Mar;232(3):617-624	Original Article
45	Kobayashi S, Hayashi M, Shinozaki K et al.	整形外科	Oligosynaptic inhibition of group I afferents between the brachioradialis and flexor carpi radialis in humans.	Neurosci Res. 2016 Sep;110:37-42	Original Article
46	Maruyama M, Harada M, Satake H et al.	整形外科	Bone-peg grafting for osteochondritis dissecans of the humeral capitellum.	J Orthop Surg. 2016 Apr;24(1):51-6	Original Article
47	Maruyama M, Satake H, Takahara M et al.	整形外科	Treatment for Ulnar Neuritis Around the Elbow in Adolescent Baseball Players: Factors Associated With Poor Outcome.	Am J Sports Med. 2017 Mar;45(4):803-809	Original Article
48	Satake H, Takahara M, Takagi M	整形外科	Osteochondritis Dissecans of the Humeral Capitellum Associated with a Large Subchondral Bone Cyst: Two Cases Report.	J Hand Surg Asian Pac Vol. 2016 Jun;21(2):257-61	Case report
49	Satake H, Hanaka M, Honma R et al.	整形外科	Complications of Distal Radius Fractures Treated by Volar Locking Plate Fixation.	Orthopedics. 2016 Sep 1;39(5):e893-6	Original Article
50	Sugita M, Yamazaki Y, Goto JI, et al.	整形外科	Role of postsynaptic inositol 1,4,5-trisphosphate receptors in depotentiation in guinea pig hippocampal CA1 neurons.	Brain Res. 2016 Jul 1;1642:154-62	Original Article
51	Takakubo Y, Oki H, Naganuma Y et al.	整形外科	Distribution of podoplanin in synovial tissues in rheumatoid arthritis patients using biologic or conventional disease-modifying anti-rheumatic drugs.	Curr Rheumatol Rev.2017;13(1):72-78.	Original Article
52	Takahashi T, Hasegawa A, Igarashi H et al.	産科婦人科	Prognostic factors for patients undergoing vitrified-warmed human embryo transfer cycles: a retrospective cohort study.	Hum Fertil. 2017 Jun;20(2):140-164	Original Article
53	Matsumura S, Ohta T, Yamanouchi K et al.	産科婦人科	Activation of estrogen receptor alpha by estradiol and cisplatin induces platinum-resistance in ovarian cancer cells.	Cnacer Biol Ther. 2016 Sep 30	Original Article

54	Igarashi H, Takahashi T, Abe H et al.	産科婦人科	Poor embryo development in post-ovulatory in vivo-aged mouse oocytes is associated with mitochondrial dysfunction, but mitochondrial transfer from somatic cells is not sufficient for rejuvenation.	Hum Reprod.2016 Oct;31(10):2331-8	Original Article
55	Namba H, Narumi S, Susa S et al.	眼科	Corneal vesicles accumulate collagen VI associated with tissue remodeling in apolipoprotein a-I deficiency: a case report.	BMC Ophthalmol. 2017;17(1):11	Case report
56	Ito T, Kubota T, Takagi A et al.	耳鼻咽喉科	Safety of heat generated by endoscope light sources in simulated transcanal endoscopic ear surgery.	Auris Nasus Larynx. 2016 Oct;43(5)::501-6	Original Article
57	Furukawa T, Abe Y, Ito T et al.	耳鼻咽喉科	Benefits of High-Dose Steroid + Hespander + Mannitol Administration in the Treatment of Bell's Palsy.	Otol Neurotol. 2017 Jan;38:272-7	Original Article
58	Nishida H, Fukuhara H, Yamagishi A et al.	泌尿器科	Sequential molecularly targeted drug therapy including axitinib for a patient with end-stage renal failure and metastatic renal cell carcinoma.	Hemodial Int 2016 Apr;20(2):E1-4	Original Article
59	Nishida H, Yamagishi A, Sakurai T et al.	泌尿器科	Risk factors for erectile dysfunction in end-stage renal disease patients with short- or long-term hemodialysis therapy.	Renal replacement Therapy.2016;2:65	Original Article
60	Suenaga S, Ichiyanagi O, Ito H et al.	泌尿器科	Expression of Extracellular Signal-regulated Kinase 5 and Ankyrin Repeat Domain 1 in Composite Pheochromocytoma and Ganglioneuroblastoma Detected Incidentally in the Adult Adrenal Gland.	Intern Med.2016;55(24):3611- 3621	Case report
61	Ito H, Ichiyanagi O, Naito S et al.	泌尿器科	GSK-3 directly regulates phospho-4EBP1 in renal cell carcinoma cell-line: an intrinsic subcellular mechanism for resistance to mTORC1 inhibition.	BMC Cancer. 2016 Jul 7;16:393	Original Article
62	Fukuhara H, Ichiyanagi O, Kakizaki H et al.	泌尿器科	Clinical relevance of seasonal changes in the prevalence of ureterolithiasis in the diagnosis of renal colic.	Urolithiasis. 2016 Nov;44(6)529-537	Original Article
63	Ohtaki K, Kawamae K, Ishikawa S et al.	麻酔科	Genotoxicity of occupational exposure of anesthesiologists to sevoflurane.	Yamagata Medical Journal. 2016;34(2):85-91	Original Article
64	Ozaki H, Ishikawa S, Kitabatake K et al.	歯科口腔外科	Functional and aesthetic rehabilitation with maxillary prosthesis supported by two zygomatic implants for maxillary defect resulting from cancer ablative surgery: a case report/technique article.	Odontology. 2016 May;104(2):233-8	Case report

65	Ozaki H, Sakurai H, Yusa K et al.	歯科口腔外科	Mandibular Reconstruction With Fibula Bone Graft Followed by Particulate Cancellous Bone and Marrow Graft With Titanium Mesh Tray.	J Oral Implantol. 2016 Aug;42(4):381-4	Case report
66	Ozaki H, Tachibana H, Ishikawa S et al	歯科口腔外科	Disseminated Intravascular Coagulation after Surgery for Facial Injury.	Case Rep Dent. 2016;6053652(オンライン)	Case report
67	Yusa K, Yamamoto O, Takano H et al.	歯科口腔外科	Zinc-modified titanium surface enhances osteoblast differentiation of dental pulp stem cells in vitro.	Sci Rep. 2016 Jul 8;6:29462(オンライン)	Original Article
68	Tachibana H, Sho R, Takeda Y et al.	歯科口腔外科	Circulating miR-223 in Oral Cancer: Its Potential as a Novel Diagnostic Biomarker and Therapeutic Target.	Plos One. 2016 Jul 21;11(7)(オンライン)	Original Article
69	Ishikawa S, Sugimoto M, Kitabatake K et al.	歯科口腔外科	Identification of salivary metabolomic for oral cancer screening.	Sci Rep. 2016 Aug 19;6:31520(オンライン)	Original Article
70	Yusa K, Yamamoto O, Iino M et al.	歯科口腔外科	Eluted zinc ions stimulate osteoblast differentiation and mineralization in human dental pulp stem cells for bone tissue engineering.	Arch Oral Biol. 2016 Nov;71:162-169	Original Article
71	Ishikawa S, Ishikawa H, Fuyama S et al.	歯科口腔外科	Report of a case of acinic cell carcinoma of the upper lip and review of Japanese cases of acinic cell carcinoma of the minor salivary glands.	J Clin Exp Dent. 2016 Dec 1;8(5):e638-e644(オンライン)	Case report
72	Ishikawa S, Watanabe T, Iino M	歯科口腔外科	Acute septic arthritis of the temporomandibular joint derived from otitis media: a report and review of the English and Japanese literature.	Oral Maxillofac Surg. 2017 Mar;21(1):83-85	Case report
73	Kobayashi T, Nakano M, Kurihara K et al.	救急科	Simulation of Spontaneous Breathing Synchronization under Non-Invasive Positive Pressure Ventilation with a Helmet-Type Interface: Comparison of Two Ventilators under Three Different Lung Conditions.	Yamagata Medical Journal. 2016;34(2):77-84	Original Article
74	Suzuki S, Okada M, Kuramoto K et al.	腫瘍内科(重粒子線医学講座)	Aripiprazole, an Antipsychotic and Partial Dopamine Agonist, Inhibits Cancer Stem Cells and Reverses Chemoresistance.	Anticancer Res. 2016 Oct;36(10):5153-5161.	Original Article
75	Nakamura S, Fukui T, Sasahara Y et al.	腫瘍内科	The Role of Cancer Boards in the Treatment Decisions Regarding Chemotherapy.	Intern Med. 2016 Nov;55(21):3119-23.	Original Article

76	Tkakeda H, Okada M, Suzuki S et al.	腫瘍内科	Rho-Associated Protein Kinase (ROCK) Inhibitors Inhibit Survivin Expression and Sensitize Pancreatic Cancer Stem Cells to Gemcitabine.	Anticancer Res. 2016 Dec;36(12):6311-6318.	Original Article
77	Nakamura S, Fukui T, Suzuki T et al.	腫瘍内科	Long-term survival after a favorable response to anti-EGFR antibody plus chemotherapy to treat bone marrow metastasis: a case report of KRAS-wildtype rectal cancer.	Oncology Targets and Therapy. 2017 Feb 23(10):1143-1147	Case report
78	Morikane K, Honda H, Suzuki S et al.	検査部・感染制御部	Factors associated with surgical site infection following gastric surgery.	Infect Control Hosp Epidemiol. 2016;37(10):1167-1172	Original Article
79	Hayasaka K	小児科	Unique food-entrained circadian rhythm in cysteine414-alanine mutant mCRY1 transgenic mice	Sleep Biol Rhythms. 2016;14(3):261-269	Original Article
80					
81					

計79件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 審査の流れについて記載。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの定義、委員会の設置、実施方法等について。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 8 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理方針」及び「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」改正に関する説明、倫理審査委員会への申請方法、申請内容の留意点、利益相反管理、研究倫理について。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

卒後臨床研修修了後の専門医取得に必要な高度先進医療の研修は、大学病院が最も得意とするところである。山形大学では各診療科が専門医に要求される研修内容に対応して緻密に組まれた独自の専門医養成プログラムを有している。

また、山形大学には県内外の主要な教育病院及び山形県と合同で組織する「蔵王協議会」という組織があり、これにより大学附属病院と関連病院が有機的に結びついた研修が可能である。さらに、我が国の医学部で最初に導入した大学院社会人選抜枠を最大限に利用することにより、市中病院に勤務しながら大学院生として専門医取得のための研修や博士号取得のための研究を行うことができる。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 97人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
久保田 功	第一内科	教授	37年	
上野 義之	第二内科	教授	31年	
諏佐 真治	第三内科	准教授	23年	
大谷 浩一	精神科	教授	36年	
佐々木 綾子	小児科	准教授	24年	
木村 理	第一外科	教授	38年	
中村 潤	第二外科	講師	28年	
小久保 安昭	脳神経外科	准教授	21年	
佐々木 幹	整形外科	准教授	22年	
紺野 隆之	皮膚科	講師	19年	
土谷 順彦	泌尿器科	教授	29年	
山下 英俊	眼科	教授	36年	
欠畑 誠治	耳鼻咽喉科	教授	30年	
鹿戸 将史	放射線診断科	准教授	15年	
市川 真由美	放射線治療科	助教	13年	
永瀬 智	産科婦人科	教授	26年	
岡田 真行	麻酔科	助教	21年	
橘 寛彦	歯科口腔・形成外科	助教	15年	
中根 正樹	救急科	准教授	24年	
福井 忠久	腫瘍内科	助教	23年	
鈴木 匡子	高次脳機能科	教授	32年	
山川 光徳	病理診断科	教授	35年	
山川 真由美	疼痛緩和内科	講師	24年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)
<p>・研修の主な内容： 『口腔ケア歯科衛生士養成コース』（東北がんプロフェッショナル養成推進プラン） がん患者に対して効果的な口腔ケアが実践できる歯科衛生士を養成するため、がん化学療法、放射線療法そして手術療法などに関する基盤的知識を講義するとともに、口腔ケアに関する理論と実践を学ぶ。</p> <p>・研修の期間・実施回数 ①平成28年4月～平成29年3月（月に1・2回程度） ②平成28年10月～平成29年9月（月に1・2回程度）</p> <p>・研修の参加人数 ①平成28年4月～平成29年3月・・・0名（歯科衛生士） ②平成28年10月～平成29年9月・・・1名（歯科衛生士）</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況 (任意)
<p>・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 根本 建二
管理担当者氏名	薬剤部長 白石 正、 看護部長 斉藤 律子、 総務課長 後藤 尚宏、 医事課長 菅原 幹夫

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課 ファイルにて年度毎に分類、保管している。
		各科診療日誌	看護部 ファイルにて年度毎に分類、保管している。
		処方せん	薬剤部 紙面にて入院、外来別、月毎に分類、保管している。
		手術記録	医療情報部 (診療記録室) カルテ等病歴資料やエックス線写真は、電子カルテ上で共にコンピュータによる集中管理を行っているが、一部の診療科においては、紙カルテで運用している。 手術記録や紹介状等の文章はスキャンし、タイムスタンプを取得の上、電子データを保存し原本としている。 貸出を受けた紙診療録は、病院外に持ち出すことはできない。ただし、事前に所定の院外借用申請書を提出し、許可を受けた資料袋の病院外借用の場合は、この限りではない。
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	各担当でファイルにて年度ごとに分類、管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター 医事課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課	各担当でファイルにて年度ごとに分類、保管している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		監査委員会の設置状況	医事課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課	
		職員研修の実施状況	医事課	
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 本院における医療の安全管理に関する基本的な考え方(2) 本院における医療の安全管理のための組織及び体制に関する基本的事項(3) 本院において医療の安全管理のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針(4) 本院における医療事故の報告等、医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針(5) 本院における医療事故等発生時の対応に関する基本方針(6) 本院の医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針(7) 本院の患者からの相談への対応に関する基本方針(8) その他、本院の医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (☑・無)・ 開催状況：年 16回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 安全管理の指針に関すること(2) 医療事故に係る体制に関すること(3) 医療事故又はそのおそれがある事例が発生した場合の原因調査、分析、事故の判定(影響度レベル及び過失の有無)並びに対応策に関すること(4) 分析結果を活用した安全管理を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること(5) 改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること(6) 入院患者が死亡した場合及び通常経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における原因調査、分析等並びに報告の実施状況の確認及び病院長への確認結果の報告に関すること(7) 報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること(8) その他安全管理に関する必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 23回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで、個々の従業者の安全に対する意識・安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識の向上等を図る内容(2) 当院における具体的な事例等を取り上げた内容(3) 当院全体に共通する安全管理に関する内容	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☑・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) あらかじめ定められた手順、事故収集の範囲等に関する規定に従い事例を収集・分析することで、当院における問題点を把握し、組織としての改善策の企画立案及びその実施状況の評価し、これらの情報を共有する。(2) 重大な事故の発生時には、速やかに管理者へ報告する。また、改善策については、背景要因及び根本原因を分析し、検討された効果的な再発防止策を立案する。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 本院における院内感染対策に関する基本的な考え方(2) 本院における院内感染対策のための委員会及びその他の組織に関する基本的事項(3) 本院における院内感染対策のために医療従事者に対して実施する研修に関する基本方針(4) 本院における感染症の発症状況の報告に関する基本方針(5) 本院における院内感染発生時の対応に関する基本方針(6) 本院の患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針(7) その他、本院の院内感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者に報告する。(2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知徹底を図る。(3) 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 16 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、従業者に周知徹底を行うことで個々の従業者の院内感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での技能やチームの一員としての意識向上等を図る内容。(2) 病院の実情に即した内容。(3) 病院全体に共通する院内感染に関する内容。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 毎月 1 回、院内の感染状況のサーベイランスを実施し、感染対策委員会・感染制御部会で報告。感染症の発生動向を共有し、院内感染の予防及びまん延の防止を図る。また、ICT ラウンド時等の重点指導項目として活用する。 (MRSA、多剤耐性緑膿菌等主要検出菌 10 数種類を週報として把握)(2) 院内感染対策の指針に即した院内感染対策マニュアル「院内感染の手引き」を整備し、各部署への配付並びに院内ネットワークにより電子媒体で提供している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年14回
・ 研修の主な内容： (1) 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項 (2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 (3) 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： (1) 医薬品安全管理責任者および担当者に関する事項 (2) 本院で用いる医薬品の採用・購入に関する事項 (3) 本院における医薬品の管理に関する事項 (4) 本院の患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 (5) 本院の患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 (6) 本院における医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 (7) 本院と他施設との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 厚生労働省からの副作用情報 (2) 採用医薬品の一増一減徹底 (3) 危険薬のリスト作成、病棟への配布 (4) 最大投与量のチェックシステム構築 (5) 未承認等医薬品への対応検討	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年10回
・ 研修の主な内容： (1) 医療機器の有効性・安全性に関する事項 (2) 医療機器の使用法に関する事項 (3) 医療機器の保守点検に関する事項 (4) 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項 (5) 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 特に保守点検が必要と考えられる医療機器に対する保守点検の状況は以下のとおりである。 ①人工心肺装置及び補助循環装置については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 ②人工呼吸器については、始業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 ③血液浄化装置については始業時、使用中、終了時の点検及び定期点検(年1回)を実施している。 ④除細動装置については、定期点検(年1回)を実施している。 ⑤閉鎖式保育器については、定期点検(年1回)を実施している。 ⑥診療用高エネルギー放射線発生装置については、始業、終業点検及び定期点検(年4回)を実施している。 ⑦診療用放射線照射装置については、始業、終業点検及び定期点検(年1回)を実施している。 ⑧シリンジポンプ、輸液ポンプについては定期点検(年1回)を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 医療機器添付文書等の整理 (2) 医療機器の不具合や健康被害等に関する情報を病院長へ報告 (3) 医療安全管理部との情報共有や合同勉強会の開催	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者 (副病院長 (医療安全担当)) が、医療安全管理部、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室において情報を収集・管理。</p> <p>随時病棟等へ文書で周知。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認新規医薬品評価部門で審議。適応外・禁忌は倫理委員会等で審議。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：山形大学医学部附属病院診療録記載要項及び山形大学医学部附属病院の医療に関する安全管理指針に基づき、診療録記載の実施状況確認を定期的に行い、チェックリスト等を用いて必須項目の記載等について、記載方法や内容について指導を行う。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>山形大学医学部附属病院診療録記載要項に基づき、診療録記載の実施状況確認を定期的に行っている。また、入院時、診察時の診療録記載、及び退院サマリ・入院診療計画書・手術記録・カンファレンス時の記載内容等について、記載方法や内容について指導を行う。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（ 6 ）名、専任（ ）名、兼任（ 18 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 6 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 5 ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）医療事故等防止対策委員会の会議に関する事、その他庶務に関する事 （2）インシデント報告の分析及び医療事故防止対策の策定に関する事 （3）安全管理のための研修、啓発普及、教育等の企画立案及び実施に関する事 （4）事故等に関する診療録等への記録の記載の確認・指導に関する事 （5）事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認・指導に関する事 （6）事故等の原因究明についての確認・指導に関する事 （7）医療安全管理に係る連絡調整に関する事 （8）医療安全管理に資する診療状況の把握及び職員の医療安全に関する意識の向上の確認に関する事 （9）その他医療安全対策の推進に関する事 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>適用なし</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> <p>診療内容のモニタリングについては、肺血栓塞栓症予防策指示書や転倒の危険度チェックシート等の使用状況を確認しており、必要に応じてチェックシートの内容を再検討している。また、手術部のオカレンスレポート件数及びその中からインシデントとして報告された件数とその内容を確認している。</p>	

医療安全の認識についてのモニタリングは、全職員の医療安全に関する研修の受講状況等により確認を行っている。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (・無)
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・無)
- ・活動の主な内容：
平成 29 年 5 月に 1 件の申請があり、部門会議及び評価委員会を開催し審議した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・無)
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (・無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (・無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・無)
- ・活動の主な内容：
平成 29 年 9 月現在、本件に関する申請はない。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・無)

⑨ 監査委員会の設置状況

・無

- ・監査委員会の開催状況：年 1 回 (年 3 回開催予定)
- ・活動の主な内容：
 - (1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること
 - (2) 必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有・)

・ 委員名簿の公表の有無 (・無)

・ 委員の選定理由の公表の有無 (・無)

・ 公表の方法 :

本学のホームページに記載

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗谷 義樹	地方独立行政 法人山形県・酒 田市病院機構	○	医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	有・ <input checked="" type="radio"/>	1
阿彦 忠之	山形県健康福 祉部		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/>	2
久保田 功	山形大学		病院関係業務を 担当する理事	<input checked="" type="radio"/> ・無	3
西岡 正樹	山形大学学術 研究院		医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	<input checked="" type="radio"/> ・無	1
佐多 和子	山形家庭裁判 所家事調停委 員		医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/>	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 166 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 2 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 安全管理の指針に関すること
 - (2) 医療事故に係る体制に関すること
 - (3) 医療事故又はそのおそれがある事例が発生した場合の原因調査、分析、事故の判定(影響度レベル及び過失の有無)並びに対応策に関すること
 - (4) 分析結果を活用した安全管理を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること
 - (5) 改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること
 - (6) 入院患者が死亡した場合及び通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における原因調査、分析等並びに報告の実施状況の確認及び病院長への確認結果の報告に関すること
 - (7) 報告の実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること
 - (8) その他安全管理に関する必要な事項

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り ((病院名：京都大学医学部附属病院) ・無) 10/2 実施予定
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：山口大学医学部附属病院) ・無) 12/5 実施予定
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者からの相談については、医療相談室で対応し、安全管理に係る相談についても、医療安全管理部及び関係部署と連携の上、対応するとともに管理者への報告も実施している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (・ 無)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 (・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (・ 無)

⑭ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

平成 29 年 2 月 6 日 : 患者と医療者が協働する医療を目指して

平成 29 年 4 月 4 日 : 医療におけるリスクマネジメント

平成 29 年 4 月 5 日 : インフォームド・コンセントについて

平成 29 年 4 月 17 日, 18 日 : シリンジポンプ・輸液ポンプ・重症監視モニターの取扱いについて

平成 29 年 5 月 15 日, 16 日 : 人工呼吸器, NPPV, SCD, メラサキューム, 除細動器, 心電計の取扱いについて

平成 29 年 5 月 22 日, 29 日, 6 月 1 日 : 医療におけるリスクマネジメント

平成 29 年 7 月 5 日 : 免疫チェックポイント阻害剤への対応, 高難度新規医療技術の導入について, 未承認新規医薬品に関する医療提供

平成 28 年 8 月 1 日, 2 日 : 医療におけるリスクマネジメント

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

管理者 : 平成 29 年 10 月 18 日, 医療事故調査制度に係る「管理者・実務者セミナー」(日本医師会主催) 受講予定

医療安全管理責任者, 医薬品安全管理責任者, 医療機器安全管理責任者 : 平成 30 年 3 月までに受講予定

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 根本 建二	
閲覧担当者氏名	医学部総務課長 後藤 尚宏	
閲覧の求めに応じる場所	医学部管理棟第一会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧請求者は、閲覧申込書に必要な事項を記入し、必要書類（資格・身分を証明する証明書など）を添えて、医学部総務課庶務担当に提出することで、閲覧の請求をすることができる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
医 師	延	0	件
歯 科 医 師	延	0	件
国	延	0	件
地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	